

# 陛下「国民に寄り添う」

## 儀式に古式道具

### 宮殿、装束姿の職員並ぶ



「即位礼正殿の儀」で天皇陛下下の即位を祝い、万歳三唱する参列者ら＝22日午後1時24分、宮殿・松の間

「即位礼正殿(せいいでん)の儀」を彩るのは、天皇陛下が即位を宣言される皇居・宮殿内に立つ、古式装束に身を包んだ宮内庁職員たち。手には「威儀物(いぎもの)」と呼ばれる弓や太刀などを持ち、儀式に荘厳さを添える意味合いがある。

即位礼で威儀物が使われるようになったのは、平安時代の文献で確認されている。儀式を華やかに行っていた中国に倣ったという説があり、後の天皇の即位でも使われてきた。天皇、皇后両陛下が立つ高御座(たかみくら)と御帳台(みちやうだい)が設置された「松の間」の近くには、剣や弓を携えた「威儀物」と、太刀、弓、櫛(かみ)などを持つ「威儀物持持(いぎものもちもち)」者が並ぶ。儀式で起立敬礼の合図のために鳴らす鉦(しん)や、(かね)や鼓(こ)。(大鼓は、宮内庁楽部が演奏。いずれも黒色や緋色(ひいろ)など、「束帯」という装束)。

束(身を包み、威儀の職員らの配置を変更。者は儀式用のように重厚な装束や道具は減らし、屋内の宮殿肩にかける。雨に弱いため、計10の回廊に置くこと)に雨に伴い、宮内庁は人以上並ぶはずだった。



皇居・宮中三殿の賢所での儀式を終えられた天皇陛下＝22日午前9時17分(代表撮影)



皇居・宮中三殿の賢所での儀式を終えられた皇后さま＝22日午前9時48分(代表撮影)

### 首相寿詞全文

安倍晋三首相の即位礼正殿の儀での寿詞(よこごと)全文は次の通り。

謹んで申し上げます。天皇陛下におかれましては、本日(こ)にめでたく「即位礼正殿の儀」を挙行され、即位を内外に宣明されました。一同ぞぞって心からお喜び申し上げます。

ただいま、天皇陛下から、上皇陛下の歩みに深く思いを致され、国民の幸せと世界の平和を常に願ひ、国民に寄り添いながら、日本国憲法にのっとり、象徴としての責務を果たされたとのお考えと、わが国が一層発展し、国際社会

### 安倍晋三首相の即位礼正殿の儀での寿詞ポイント

- 一同ぞぞって心からお喜び申し上げます
- 国民に寄り添いながら象徴としての責務を果たす考えを伺い、敬愛の念を新たにいたしました
- 私たちは天皇陛下を日本国、日本国民統合の象徴と仰ぐ
- 平和で誇りある日本の輝かしい未来、文化が生まれ育つ時代を創り上げていくため、最善の努力を尽くす
- 令和の代(よ)の平安と天皇陛下の弥栄(いやさか)を祈る

## 神話由来、宗教色強く

### くすぶる政教分離論議

政府は、天皇陛下の「即位礼」に関連する一連の儀式について、新憲法で初めて執り行われた平成の代替わり時を踏襲し、国事行為とする意向を明らかにした。ただ、中心儀式「即位礼正殿の儀」が宗教的性格を帯び、憲法の定める政教分離規定に反するとの声はくすぶっている。国民の代表を見下ろす姿は、国民主権に矛盾するとの意見もある。

議論の焦点となったのは、天孫降臨神話に由来する玉座「高御座(たかみくら)」や、皇祖の神とされる天照大神(あまてらすおみ)が授けられた「三種の神器」の一部分の「鏡(かみかたま)」。古式装束に身を包んだ陛下が壇上から即位儀式の様式をほば「即位の礼と大嘗祭(だいじょうさい)」へ



### 天皇、皇后両陛下の歩み

1960年2月23日	天皇陛下が上皇ご夫妻の長男として誕生	02年12月	ニュージーランド、オーストラリアへ
63年12月9日	皇后雅子さまが、後の外務事務次官小和田恒、優美子夫妻の長女として誕生	03年3月16日	陛下「第3回世界水フォーラム」名誉総裁として京都市で講演
65年8月	皇后さま、父の転勤でモスクワへ	12月3日	皇后さま、帯状疱疹(ほうしん)と診断
66年4月	陛下、学習院初等科入学	04年5月10日	陛下、訪欧前の記者会見で「雅子のキャリアや人格を否定するような動きがあったことも事実」と発言
68年5月	皇后さま、米ニューヨークへ	7月30日	宮内庁、皇后さまの病名を「適応障害」と公表。療養生活へ
72年4月	皇后さま、田園調布雙葉小3年に編入	06年8月	静養のためご一家でオランダへ
82年3月	陛下、学習院大文学部史学科卒業	07年11月	陛下、国連「水と衛生に関する諮問委員会」名誉総裁に就任
10月	陛下、ブラジルへ初の外国公式訪問	11年4月6日	東日本大震災後初めて東京都内の避難所訪問
83年6月	陛下、英オックスフォード大留学へ	6～8月	宮城、福島、岩手各県で仮設住宅など訪問
85年6月	皇后さま、米ハーバード大卒業	13年3月6日	陛下、ニューヨークの国連本部での「水と災害に関する特別会合」で講演
10月31日	陛下、留学から帰国。帰途米国を訪問	4月28日～5月3日	オランダへ。皇后さまの海外公式訪問は約11年ぶり
86年4月	皇后さま、東大法学部に学士入学	16年8月8日	上皇さまがビデオメッセージで退位への思いを示す
10月18日	スペイン・エレナ王女の歓迎パーティーで両陛下が出会う	17年4月	愛子さま、学習院女子高等科に入学
87年4月	皇后さま、外務省入省	6月9日	退位を実現する皇室典範特例法が成立
88年3月	陛下、大学院修士課程修了	19年4月1日	新元号「令和」決定
7月1日	皇后さま、研修留学で英国へ	4月30日	上皇さま退位
89年1月7日	昭和天皇逝去。皇太子となる	5月1日	陛下即位。令和スタート
92年8月16日	両陛下が約5年ぶりに再会	27日	米国のトランプ大統領らを招き、即位後初の宮中晩さん会
10～12月	千葉県の新浜鴨場で極秘デート。陛下のプロポーズを皇后さまが2カ月後に承諾	6月2日	愛知県で「全国植樹祭」に出席。即位後初の地方訪問
93年6月9日	結婚の儀	10月22日	「即位礼正殿(せいいでん)の儀」
94年11月	結婚後初の外国訪問で中東へ		
95年1月	中東訪問。阪神大震災のため日程短縮		
2～3月	震災慰霊などのため兵庫県訪問		
99年12月30日	皇后さま、稽留産で手術		
2001年12月1日	長女愛子さま誕生		

### 即位の礼

皇位継承を国内外に示す国事行為としての一連の儀式。5月1日に「三種の神器」の一部を引き継いだ「剣璽(けんじ)等承継の儀」、三種の長らを前に即位を宣言した「中心儀式」が「即位礼正殿の儀」で、諸外国の国王戴冠式や即位式に当たり、各国首脳や王族、賓客らを招待。天皇、皇后両陛下がオープナーでパレードする「祝賀御列(おんれつ)の儀」と、即位を祝う祝宴「饗宴(きょうえん)の儀」も、平成時の代替わり同様、政府は国事行為とした。

### 黄櫛染袍(こうしぜんぼう)

重要な儀式で天皇のみが着用できる古式装束の上着。ハゼノキの樹皮やスオウの木などを使って染め出され、「赤みがかった黄色」や「黄色みを帯びた茶色」と表現される色合いが特徴。地紋には鳳凰(ほうおう)や麒麟(きりん)、桐(きり)や竹がある。平安時代の9世紀、天皇の装束として、嵯峨天皇が定めた。江戸時代末期までの即位の儀式では、中国風の伝統的な礼装が用いられていたが、明治天皇の時から王政復古の精神に倣い、黄櫛染袍が使われるようになった。

### 高御座(たかみくら)

即位礼正殿の儀で、天皇陛下が使う玉座。天孫降臨神話に由来し、天皇の即位を象徴する調度品。高さ約6.5m、重さ約8t、黒漆塗りの壇の上に八角形の屋根が据えられ、大小の鳳凰(ほうおう)や金具細工で飾られている。皇后さまが使う「御帳台(みちやうだい)」はほぼ同様の作りだが、一回り小さい。遅くとも奈良時代から重要儀式で用いられてきたとされる。現在のものは大正天皇の即位に際して新造され、京都御所で保管されてきた。昨年9月、トラックで皇居へ移送され、修理を施し、組み立てた。